



長野県

土木施工管理技士会報

第55号
2024年(令和6年)
3月31日

発行 長野県土木施工管理技士会 〒380-0824 長野市南石堂町1230 長建ビル
TEL026-228-7200(代) FAX026-224-3061
発行責任者 野島登 制作 新建新聞社



進む！【中央リニア新幹線 天竜川橋梁工事】飯田市・喬木村

令和5年度長野県土木施工管理技士会総会(令和5年6月20日)



受賞者からの謝辞

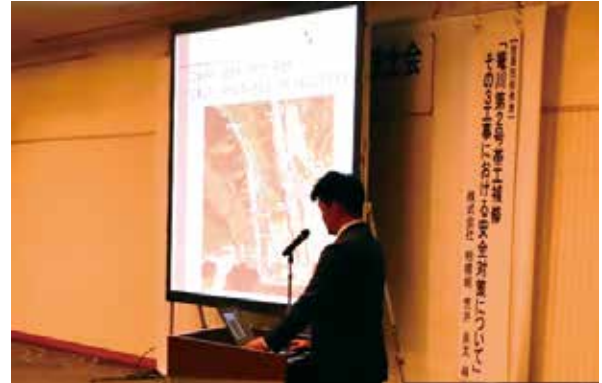
令和5年度の技士会総会は長野市のホテル国際21において、令和5年6月20日に行われました。

本年度は、5月に新型コロナウイルス感染症も5類となったため、来賓者や代議員数の限定は行いませんでした。

そのため何年かぶりに行政関係のご来賓7名にも

ご参加いただき、ご祝辞を頂戴することができました。

また、総会終了後には松本砂防事務所の工事安全対策研究発表会で最優秀賞を受賞された(株)相模組の荒井良太様から「箆川第2号帯工補修工事その3工事における安全対策について」の技術発表を行っていただきました。



発表する荒井様

令和5年度長野県との意見交換会(令和6年2月8日)

令和6年2月8日に長野市のホテル信濃路で、長野県との意見交換会を実施しました。今年度はコロナ禍がひと段落し、長野県からは増澤技術管理室長様を初め全10名にご参加いただき、技士会からは、理事、監事、技術委員など37名が出席して、活発に意見交換会ができました。

新規提案議題として、設計積算関係で6題、労働環境関係で1題、基準仕様関係で2題、施工管理関係で5題、検査監査関係で2題、建設発生土関係で1題の合計17題を提出しました。また、前年度提案議題の再提案議題として合計6題が提出されました。

予定していた2時間を超え、2時間30分あまりに渡って熱心に意見交換がなされました。

野島会長からは型枠、鉄筋、ブロック積などの技能者が高齢化し、10年もすればほとんどいなくなってしまうのではと危惧しているとの発言がありました。

最後に玉川副主任専門指導員様から、まとめとして次のご発言をいただきました。「設計図書の高品質確保については、効果的な対応が難しい面があるが、関係者により改善に向けての意見交換ができればと考

えている。遠隔臨場については、県でウェアラブルカメラの利用や、スマートフォンを購入し、貸し出しができるようにしたい。」

意見交換会終了後には、これまで、新型コロナウイルス感染症の影響により、4年間実施してこなかった懇親会も行うことができ、多くの方に参加いただきました。

これからも意見交換の実施などにより、長野県と技士会と連携して、現場技術のいろいろな課題解決に繋げていきたいと思います。



意見交換の様子

(敬称略)

令和5年度全国土木施工管理技士会連合会表彰受賞者名簿

表彰規定 該当事項	受賞者名	受賞者所属	備 考
第3条 (2)口	栗木 悦郎	(株)栗木組	永年にわたり役員、または委員会の委員として尽力し、その功績が顕著な方。
	篠田 秀人	(有)篠田組	
第4条 第2項	井上 諒	(株)新津組	優良工事として表彰された公共工事に、監理技術者または主任技術者として従事した技術者及び優良技術者として表彰された者で、他の模範となる方。
	川井 剛	(株)竹花組	
	沢田 洋平	(株)北條組	
	大塚 秀昭	藤森建設工業(株)	
	小林 茂樹	窪田建設(株)	
	古瀬 渉	小澤建設(株)	

令和5年度 長野県技士会長表彰受賞者名

支部名	受賞者名	表彰者所属	支部名	受賞者名	表彰者所属
南佐久	佐々木 宏和	日建興業(株)	松 筑	石川 昌弘	(有)石川組
佐 久	佐藤 謙也	(株)小宮山土木		上野 裕司	(有)高橋工務店
		黒澤 和之	大進建設(株)	安曇野	藤原 昌利
上 小	小河原 嘉彦	柳屋建設(株)	大 北	勝川 和明	(株)傳刀組
諏 訪	松尾 正弘	(株)岡谷組		岡村 史生	金森建設(株)
伊 那	大家 康弘	(株)宮坂組		荒井 良太	(株)相模組
	小林 茂樹	窪田建設(株)	中 高	服部 修一	中沢建設(株)
飯 田	鎌倉 広志	勝間田建設(株)		高見沢 和夫	黒岩建設(株)
		下平 英樹	木下建設(株)	長 野	市川 秀利
木 曾	奥田 和彦	奥田工業(株)	胡桃 宏充		北野建設(株)
			飯 山	土屋 文一	(株)サンタキザワ
合 計	21名				

令和5年度長野県技士会事業報告

- 4月21日 正副会長・技術委員会役員 県との意見交換会 長野市(長建ビル)
①工事書類簡素化ほか
- 5月19日 第1回監査会、役員会 長野市(長建ビル)
①会計監査
②4年度事業報告、4年度収支決算報告
③5年度事業計画(案)、5年度予算(案) 審議
④第39回通常総会開催について審議ほか
- 6月2日 (一社)全国土木施工管理技士会連合会 東京都(アカデミア市ヶ谷)
①定時総会
②表彰式 功労者表彰感謝状:牛越恵司前会長受領
③技士会連合会設立30周年記念式典
- 6月20日 第39回通常総会開催 長野市(ホテル国際21)
①全国技士会連合会(全技連)会長表彰伝達 8名
②長野県技士会長表彰 21名
③4年度事業報告、4年度収支決算承認
④5年度事業計画(案)、5年度予算(案)議決
⑤役員(専務理事)選任
⑥会員技術発表
- 7月14日 第1回運営委員会(Web方式)
①本年度の現場研修予定について
- 9月14日 全技連現場視察参加 北海道新幹線建設現場
- 10月10日 全技連JCMセミナー「覗いてみよう現場のDX」松本市(松筑建設会館)27名
- 10月20日 第1回現場技術研修会 35名
①飯田市及び喬木村 三遠南信自動車道路 飯喬道路3工区
事業主体:国土交通省中部地方整備局飯田国道事務所
②飯田市及び高森町 リニア関連施設整備及び関連道路
事業主体:飯田市・長野県飯田建設事務所
- 11月21日 第2回監査会、役員会 長野市(長建ビル)
①会計監査
②5年度上半期事業報告、5年度上半期収支決算報告
③技士会細則(会費)改定予定について審議ほか
- 11月21日 第1回広報委員会 長野市(長建ビル)
①技士会報第55号制作検討
- 11月29日 第1回技術委員会 長野市(長建ビル)
①長野県技術管理室との意見交換(工事書類簡素化について)
②長野県との意見交換会議題について
- 11月30日 関東ブロック技士会連合会会議 東京都(アカデミア市ヶ谷)
- 2月8日 長野県公共事業担当部局との意見交換会(ホテル信濃路)
- 2月13日 関東ブロック技士会連合会 現場研修会 千葉県
- 2月15日 第2回現場技術研修会38名
①岡谷市・諏訪市諏訪湖サービスエリアスマートIC計画及び関連道路
事業主体:岡谷市・諏訪市 長野県諏訪建設事務所
②下諏訪町・諏訪市 国道20号 下諏訪岡谷バイパス・諏訪バイパス
事業主体:国土交通省関東地方整備局長野国道事務所
- 4月1日～ 随時 CPDS入会手続き・会員名簿の管理(事務局)

講習会

5月31日～6月2日	1級土木受験準備講習会(第1次)(キッセイ文化ホール)	受講者数 33名
8月28日～8月29日	1級土木受験準備講習会(第2次)(松筑建設会館)	受講者数 54名
9月4日～9月6日	2級土木受験準備講習会(松筑建設会館)	受講者数 60名

長野県土木施工管理技士会役員

役職名	支部名	氏名	会社名	担当	
会長	飯田	野島 登	野島建設(株)		
副会長	大北	窪田 利行	(株)相模組	企画運営広報委員会担当	
	中高	下田 文雄	(株)下田土建	技術委員会担当	
理事	東信	南佐久	(株)渡辺組	企画委員	
		佐久	(株)安土倍組	運営委員	
		上小	(株)宮下組	広報委員	
	南信	諏訪	高山 徳也	藤森土木建設(株)	広報副委員長
		伊那	黒河内勇雄	黒河内建設(株)	運営副委員長
		飯田	棚田 稔	長豊建設(株)	広報委員長
	中信	木曾	青木 孝尚	木曾土建工業(株)	企画委員長
		松筑	関川 光寿	(株)関川組	運営委員長
		安曇野	等々力 充	(株)武井組	企画委員
		大北	原 滋俊	北陽建設(株)	企画副委員長
	北信	更埴	武田 敏光	(株)武田組	広報委員
		須坂	市川 興助	市川建設(株)	企画委員
		中高	丸山 浩次	中野土建(株)	運営委員
		長野	和田 幸文	(株)和田組	広報委員
		飯山	半藤 大輔	(株)野沢総合	運営委員
	事務局	専務理事	小林 敏昭	県協会専務理事	
		常務理事	手塚 雄保	県協会常務理事	
監事	東信	南佐久	(有)由井組		
	中信	木曾	大宗土建(株)		
	北信	須坂	(有)筑波道路		

長野県土木施工管理技士会技術委員会

役職名	支部名	氏名	会社名
会長	飯田	野島 登	野島建設(株)
担当副会長	中高	下田 文雄	(株)下田土建
担当理事	中高	丸山 浩次	中野土建(株)
委員	南佐久	菊池 睦彦	寿建設工業(有)
//	佐久	佐藤 謙也	(株)小宮山土木
//	上小	北沢 智明	(株)宮下組
//	諏訪	鈴木 光一	スワテック建設(株)
//	伊那	福澤 康男	小澤建設(株)
副委員長	飯田	山本 仁	吉川建設(株)
委員	木曾	柳澤 修	木曾土建工業(株)
//	松筑	草田 章夫	(株)草田組
//	安曇野	松澤 建治	(株)松澤組
//	大北	中田 一博	金森建設(株)
//	更埴	平林 勝彦	中信建設(株)
//	須坂	鈴木 悦夫	マツナガ建設(株)
//	中高	北原 隆夫	平穏土建(株)
副委員長	長野	荻原 雅彦	(株)守谷商会
委員長	飯山	滝沢 卓也	(株)サンタキザワ

現場技術研修会報告

南信地域を大きく変える4大事業

令和5年度の現場技術研修会は10月と2月の2回実施されました。本年度の研修内容は南信地域の将来に大きな影響を及ぼす飯田地域と諏訪地域の大规模事業を視察しました。

第1回は、令和5年10月20日(金)に行い、次の事業個所について研修を行いました。

①三遠南信自動車道路

飯橋道路3工区 飯田市・喬木村 延長7.5km

②リニア中央新幹線関連施設及び関連道路

午前中の①「三遠南信自動車道路」では、事業主体である国土交通省飯田国道事務所から説明をいただきました。飯橋道路22.1kmのうち、既に供用を開始している14.6km以外の最後の工区となります。

今回、氏乗IC予定の土工事と8号橋梁下部土工事を視察しました。特に8号橋の現場は地形が急峻で狭隘な場所に高い位置に橋が架かるため、仮設構台が大規模なものとなっており、参加者もその規模や工法に感心していました。

午後の②「リニア中央新幹線関連施設及び関連道路」では、飯田市から駅の位置や駅前整備の計画などについて詳しく説明をいただき、引き続き、長野県飯田建設事務所から国道153号の4車化拡幅改良事業や、座光寺SICとリニア駅を繋ぐ座光寺上郷道路事業の関連道路について説明いただきました。



8号橋梁の仮設構台の上で

第2回は、令和6年2月15日(木)に行い、次の事業個所について研修を行いました。

①諏訪湖スマートインター事業及び関連道路

②国道20号下諏訪・岡谷バイパス 山田トンネル

午前中の①「諏訪湖スマートインター事業及び関連道路」では、諏訪建設会館において、事業主体である諏訪市からスマートインター事業の説明を、引き続き長野県諏訪建設事務所から関連する道路事業について説明をいただきました。その後、現場である諏訪湖サービスエリアへ移動して、アクセス道路の整備として進められているボックスカルバート工事や新設県道の工事などの様子を見学しました。建設発生土の処分量を抑えるためボックス構造を採用したことなどを説明いただきました。現地では、施工者である藤森土木建設(株)からスマートフォンを利用した簡易型のVRアプリの利用法が紹介されました。

再び諏訪建設会館に戻り、午後の②「国道20号下諏訪・岡谷バイパス 山田トンネル」について、国土交通省長野国道事務所から説明をいただき、土被り厚の非常に薄い箇所について、優れた技術により無事に工事が進められていることなどが紹介されました。

その後、現場へ移動し覆土工事などが進められているトンネル内を奥まで歩きながら説明いただき、先進的な技術を取り入れた工法に皆が感心したところでした。

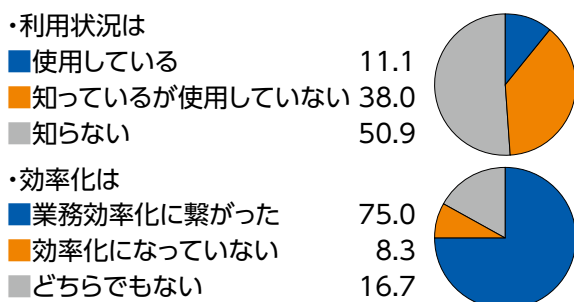


山田トンネル坑口にて

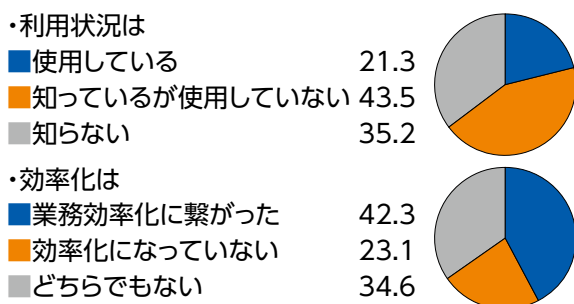
話題 「現場を効率化するいろいろなDXツール」

近年、DX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉が建設業界においてもいろいろと飛び交って久しいところです。会員の皆様も現場においてICT施工を経験されている方も多くおられると思います。長野県建設業協会においても、「DX推進専門員会」を令和3年度に設置し、長野県とも連携しながらいろいろな取組を行っているところです。

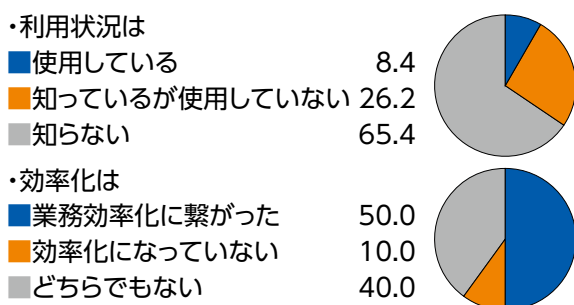
CI-NET（電子データ交換システム）



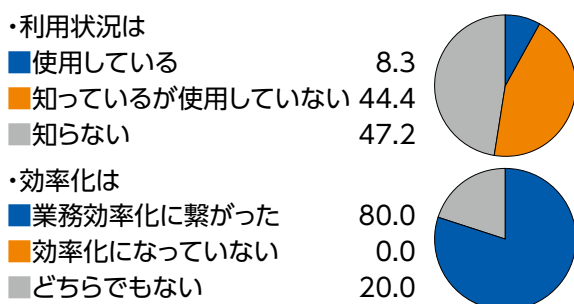
グリーンサイト（労務安全書類作成管理）



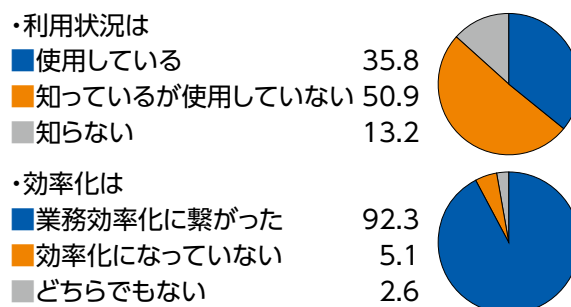
ビルディ（施工管理アプリ）



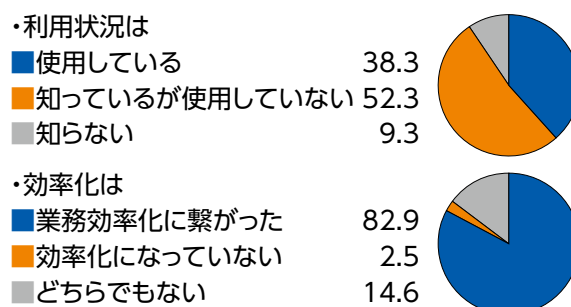
蔵衛門クラウド（施工管理アプリ）



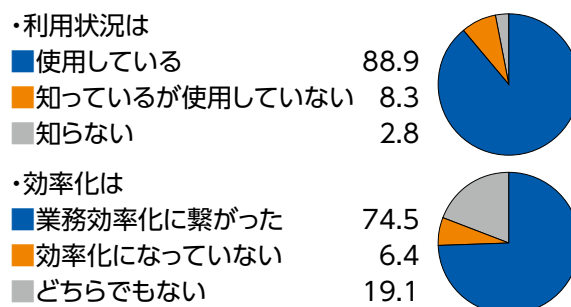
ICT建機 マシンコントロール機械



レーザスキャナー



空調服



その活動の中で、「新IT普及部会」が行った現場におけるDXツールの利用についてのアンケートをご紹介します。

左の一覧は、施工に伴う契約、労務、施工管理などのアプリ利用についての問いですが、利用している比率はまだ少ないですが、業務効率化に繋がっている状況が分かります。

右一覧は、現場での各種機器類利用についてですが、こちらは利用している比率が多いうえ、やはり効率化に繋がっていることがわかります。

2024年度から、建設業の労働時間規制の強化がスタートしますが、現場の施工管理、事務的処理など広く「一層の効率化」が必須となります。使えるツールは積極的に利用していきましょう。

土木施工管理技士検定試験制度改定について

1 制度改定の背景

国土交通省の資料によると、建設業全般の3割以上が55歳以上である一方、29歳以下が約1割となっており、全産業に比較しても少子高齢化の影響が顕著にでています。

このような状況下、建設現場において重要な役割を担う施工管理技術者を確保していくために、国土交通省では、試験制度の見直しを順次行っており、令和3年度から「技士補」制度の導入などを行ってきましたが、令和6年度からはこれまでの学歴に基づく制度を大幅に改めることとなりました。



国土交通省「建設業就業者の現状」より

2 見直しの概要

①受験資格

【2級土木施工管理技士】

旧制度	一次	17歳以上(受験年度末)
	二次	卒業後実務経験〇年(学歴別)
新制度	一次	17歳以上(受験年度末)
	二次	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2級一次合格後実務経験3年 ■ 1級一次合格後実務経験1年

【1級土木施工管理技士】

旧制度	一次	卒業後実務経験〇年(学歴別)	2級合格者条件なし
	二次	〇年(学歴別)	2級合格後、実務経験5年(一時合格後)
新制度	一次	19歳以上(受験年度末)	
	二次	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1級一次合格後実務経験1~5年 ■ 2級一次合格後実務経験1~5年 	

※学歴によらない場合は除外

②実務経験

実務経験は、検定種目に対応した業種の工事に限られます。

土木施工管理技士で認められる建設業の種別(9種)

土木一式工事・とび土工コンクリート工事・石工事・鋼構造物工事・舗装工事・しゅんせつ工事・(塗装工事)・水道施設工事・解体工事

※(塗装工事)は2級では対象外。

3 注意すべき点

- ①実務経験については、「一次合格後」のものが対象です。実務経験を活かすためにも早く一次試験に合格することが重要です。
- ②実務経験は、特定実務経験などにより必要年数が変わるためよく確認する必要があります。
- ③令和10年度までは、経過措置で新旧両方の制度が選択可能です。また、その間の関連資格保有者の実務経験は従来通りです。

4 今後の展望

これまで、学歴によっては資格取得まで相当な期間を要した制度ですが、専門課程を全く経ていない多くの若い人たちも、建設業に飛び込み活躍できることにより、深刻な人手不足になりつつある建設業界を救う制度となるよう期待したいところです。

長野支部 会員増強と資格取得に向け講習と講演会

令和5年度、技士会長野支部では6月5日の第39回通常総会にて承認されました当初事業計画に基づき、会員の増強と資格取得のための「土木施工管理技術検定受験準備講習」を主体として、他にもCPDS対象となる、会員向けの「技術講演会」や建設業協会長野支部との共催による「技術専門研修」開催等の活動をしてまいりました。



今年度は、新型コロナウイルスの5類移行に伴い徐々に人数制限が解除され、「受験準備講習」には多くの方に受講していただきました。

令和5年度の活動概要は以下のとおりです。

▷ 1・2級土木施工管理技術検定受験準備講習

【1・2級一次検定準備講習】

- ①令和5年6月3日(土)
 - ②令和5年6月10日(土)
 - ③令和5年6月17日(土)
 - ④令和5年6月24日(土)
- 於：長水建設会館3F研修講堂
受講者：19名



【1級二次検定準備講習】

- ①令和5年9月9日(土)
 - ②令和5年9月16日(土)
- 於：長水建設会館3F研修講堂
受講者：20名

【2級一次・二次検定準備講習】

- ①令和5年10月14日(土)
- 於：長水建設会館3F研修講堂
受講者：26名

▷ 技術講演会

『災害と安全管理』

- 令和5年6月5日(月)
- 於：ホテルメトロポリタン長野
- 講師：(株)守谷商会 顧問
田下 昌志 氏(元長野県建設部長)
- 参加者：57名



▷ 技術専門研修

【JCMセミナー(DVD講習)】

- ①令和5年9月20日(水)
- 『事例から学ぶ「現場の失敗」のしくみPart 2』
- 於：長水建設会館3F研修講堂
受講者：29名
- ②令和5年11月9日(木)
- 『コンクリート工事で高評価を受けるための講座～建造物の健康寿命を延ばすために～』
- 於：長水建設会館3F研修講堂
受講者：17名
- ③令和6年2月21日(水)
- 『残業を削減する7つの方法』
- 於：長水建設会館3F研修講堂
受講者：26名

建設業界全体にとって深刻な課題である「担い手不足」が懸念されている中、当支部が果たすべき役割・責任はとて大きなものがあると考えます。

今後も、講師各位のご尽力により一人でも多くの技術者を輩出するための施策を積極的に展開してまいります。

現場体験紹介

台風19号災害の復旧工事を振り返って

南佐久支部
畑八開発(株) 監理技術者
竜野麻美



昨年までの2年間、佐久穂町を流れる抜井川と余地川合流部での河川災害復旧工事を行なっていました。この工事は、隣接する町の水路工事と下水道復旧工事も付随されていました。

この頃の私は、小さな子どもがいるため定時で働いていました。以前は、監理技術者として現場に入ると日中は現場に出て管理をして、書類作成は夕方からやる事もありました。この工事の規模と内容から考えると今までと同じやり方でやっているには、定時で帰れないことが分かり、どちらも勤務時間内に行かない、現場を順調に進めていくにはどうすれば良いかが悩みでした。

この工事が始まる前は、千曲川の災害復旧工事で現場管理を担当していました。当時、まだ現場で活用している人が少なかった3次元データ使用しての測量を行なっていました。TS(トータルステーション)を使用して、土工・構造物の正確な位置を簡単に出せていました。この経験を活かし、3次元データとICT建機を活用し作業効率を向上させることとしました。

自社ICT推進室に協力してもらい、土工・出来形の

3次元データを作成してもらいました。この時、既設護岸との摺付け部分と盛土の形状に修正が必要なることが判明し、作業の手戻りを未然に防ぐことができました。

実際の現場作業は、まずTSで掘削ラインをマーキング、丁張りを掛ける作業はなく、ICT建機で掘削、ある程度掘削するとTSで確認を繰り返し、以前より容易に、正確に過掘りすることもなく進められました。この間に要した人員は、現場管理1名、重機オペ1名でした。河川合流部の急なカーブの護岸基礎工では、一定の間隔で細かく位置を出すことできれいなカーブに仕上げられました。護岸の施工中、設計位置とのズレを正確に確認することもできました。

あとは膨大な書類作成をどうするか。写真の仕分けが簡単な電子黒板は必須でした。打合せは情報共有とメールを使用することで、移動と対面に要した時間が必要なくなりました。工事書類の簡素化が始まっていたこともあり、作成書類は必要なものに限り、電子データで管理することに。完成検査書類は電子データで提出。書類作成にかかる時間は以前より減りました。

ICT技術の活用・書類の電子化、若手の助っ人がいてくれたこともあり、忙しくても定時で帰る！を概ね実現できた工事となりました。



林道工事でのICT活用

更埴支部
市川総業(株)現場代理人
小野 満



私が入社1年目に現場代理人として担当した「県営林道古海(支)線開設工事(第2工区)」は、幅員3.6m、延長498mの林業専用道開設工事で、弊社が得意とする、ICT活用工事として実施した。

従来工法では、丁張りを約60箇所を設置するが、今回は、丁張レスの施工となり材料費や人工の削減に繋がった。建機も、当時全国的に導入数が少ない、チルトローター装着のICT建機を使用した事で幅員の狭い場面でも無理なくバケットを回転させながら法面整形ができた。

発注者との協議の際には、3次元モデルの施工シミュレーションにより、互いに完成イメージの共有ができたため、最適な使用建機、施工方法の選定、変更提案の3Dモデルを活用しスムーズな協議を行えた。

この工事を通じて伝えたいのは、「現場が止まらなかった」ということだ。急な設計変更があるとICT活用工事の場合現場が止まってしまう事がある。ただ、今回現場は止まらなかった。それは、当社がICTに係る事項を

全て自己完結できる環境であるからだ。さらにこの工事は、私が測量から3次元モデルの作成をし、急な設計変更にも現場にいながら修正を行い、建機への修正データの入力も私自身が行ったため、現場を止めることなく済んだ。現場代理人として本当に良かったと思える瞬間だった。ICT技術を導入する事で様々な恩恵がある。私自身、さらなる自己研鑽を積むことでICTを活用する場面を増やし安全に施工を行い、建設業界の躍進に努めていきたい。



会員のこえ

働き方改革の取り組みについて

諏訪支部
 (株)岡谷組
 清澤俊夫



現在当社としての取り組み状況を説明させていただきます。

多くの企業がとりこんでいますが、当社では職員の残業時間を減らす、職場環境の整備、技術力の躍進、コストの削減等をテーマとし取り組んでいます。

残業時間の低減について、発注者側より求められている書類について、職員からの課題点として、検査時の書類は見た目では減っていますが、管理する我々からすれば必要不可欠の書類としては変わりがないように受け止められます。提出が部分的に提示になっただけで、整理された書類が減少になり、新技術が増え個々の能力向上が求められているからです。補うには経験豊かな管理職のサポートが必要になります。本部工事に各現場のリアルな目線映像をリアルタイムに共有し現場の見える化を図り管理者・指導者が現場状況の把握、問題点があれば指示、web 会議を開催し現場と上

司が常に一体となりサポートし、時間的ロスを少しでも短縮するようにしています、また近年建設ディレクターを数名採用し女性職員が担当するようになっていきます、経験は浅いですが複数現場の書類整備を担っています、現場技術者からは「内業時間の短縮が図られ早く帰宅できている」と言われています。残業時間は今までと違い月平均20時間以内に収まっており、働き方改革による効果が表れています。職員の増員はコスト増にも思えますが、働きやすさを求め、個々のパフォーマンス向上に繋がっています。

職場環境については、会社規則として本支店から通勤時間が1時間を超える場合は現場近くの宿泊施設を利用し職員の負担軽減を図り通勤事故災害が起きにくいようにしています、現場事務所内も配置技術者の意見を取り入れエアコン・上下水道設備の充実を図り本支店と変わらない状態を図っています、当社でも若手職員不足が顕著に表れていますが、職場環境を整え若い職員が入社しやすい環境も整えています。

これからの建設産業技術として新技術の導入はもとより少人数でも現場管理が行えるような情報共有システム・自動追尾測量機器の充実・webシステム・電子黒板・安全衛生システムなど導入し建設業で働く人数が減少する中効率よく新技術が行えるよう社内教育を充実し現場管理が行えるよう継続し、建設業が置かれている立場を踏まえインフラ整備に寄与していきます。

木曽支部
 木曾土建工業(株)
 青木孝尚



新年早々に能登半島地震が発生し、波乱の年明けから3カ月余りが経ちました。地震により被災された皆様へお見舞いを申し上げますと共に、復旧復興に向けて力を注いでいる建設業の皆様へ、また携わっている皆様へ心からのエールを送ります。

さて2020年4月から中小企業にも適用された働き方改革における、時間外労働の上限規制の施行において、建設業等には5年間の猶予が与えられていましたが、本年の4月より適用されることとなります。建設業界では、長年長時間労働や休日出勤、また季節による仕事量の変動が大きいという課題があり、業界や会員各社において、この5年の間に働き方改革に向けた取り組みが、国の主導で進められてきました。公共工事においては、様々な施策が講じられ、書類の簡素化、週休二日制を導入した建設工事及び工事の平準化、生産性向上

の為にICT化の推進、人材育成の為にキャリアアップシステムの導入等が行われてきました。当社においてもICT測量器械やICT建機、UAV測量等を取り入れ、作業の効率化を進めてきました。

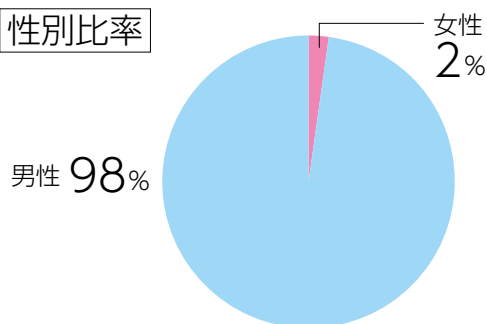
またそれらを実施する中で、我々受注者側と発注機関との間で意見交換が活発に行われ、課題を洗い出し改革を進めてきました。まだ完全に整っている訳ではありませんが、一步一步着実に進んでいることは確かです。

働き方改革は、単に労働時間や残業時間を短縮するだけが目的ではなく、働く従業員の一人一人が、仕事と私生活のバランスを取りながら、やりがいを持って働ける環境を作ることが重要だと考えています。

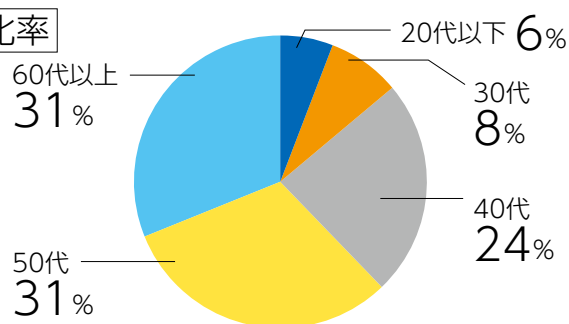
今後更に改革を加速し推し進めるためにも、市町村の発注工事や民間工事、建築工事などへの週休二日制や十分な工期の確保が行えるような施策を整え、休暇の確保や福利厚生への充実にも力を入れなければなりません。建設業における新3K、即ち「給料がいい」「休暇が取れる」「希望が持てる」を推し進め、広く建設業を広報する必要を感じており、地元の中学生に向けて、建設業をより理解して将来の担い手としても期待しつつ、職場体験を積極的に行っています。今後当社を含め、各会員企業が時間の有効活用を意識して、更なる生産性の向上に取り組み、人材の集まる業界を目指して努めていくことを望みます。

支 部	会員数	男性	女性	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
南 佐 久	175	167	8	14	20	42	58	41
佐 久	283	272	11	10	13	51	73	136
上 小	125	117	8	5	9	32	25	54
諏 訪	246	244	2	11	27	60	84	64
伊 那	442	437	5	13	31	126	134	138
飯 田	443	434	9	30	44	99	135	135
木 曾	137	135	2	8	9	34	39	47
松 筑	390	380	10	23	34	85	119	129
安 曇 野	111	105	6	7	7	28	38	31
大 北	304	300	4	14	19	81	98	92
更 埴	55	53	2	0	3	3	22	27
須 坂	84	84	0	11	9	27	25	12
中 高	68	68	0	12	3	18	22	13
長 野	465	457	8	28	42	119	161	115
飯 山	161	158	3	18	22	42	36	43
合 計	3,489	3,411	78	204	292	847	1,069	1,077
比 率		98%	2%	6%	8%	24%	31%	31%

性別比率



年代比率



編集後記

地域を守る建設業の姿を伝える

広報委員 (株)武田組 武田敏光

令和6年能登半島地震でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、地域を守る建設業に携わる者として、被災地域の方々が一日も早く日常生活を取り戻せるよう、できる限りの支援をさせていただきたいと考えております。

災害はいつ、どこで発生するかわかりません。我々が経験した平成元年台風19号災害も寝耳に水の出来事でした。復旧作業は24時間体制で行われ、被災地の建設業従事者は自らも被災しながら町のために尽力します。

ドローンによる立ち入り困難区域の被災状況の確認、二次災害の恐れがある場所では無人化施工による復旧作業など、私達の「最新技術と豊富な経験」が急務に求められます。建設業界の技術革新とマンパワーは、日常的なインフラ整備のみならず、緊急時には特に必要不可欠だと再確認しました。また、施工技術の発展と同時に心の繋がりの大切さも改めて感じ

ています。親しみある街の様子が災害により一変し、過去に自分たちが想いを込めて施工した建物や道路が崩れ去った姿を目の当たりすることもあるかもしれません。切なさと共に、一刻も早く復旧させなければという強い思いが自然と沸き起こります。地域への愛情と責任感、使命感が大勢の人々を動かしていることは間違いなく、メディアには是非そういった状況も伝えていただければと思います。

私は今、建設業がいかに地域に貢献しているか、中学生に体験学習を通じて知ってもらおう機会を得ています。体験後の生徒さんからは「建設業って凄い！ 有難い！」という声が多く聞かれます。活動を通して、建設業の役割が若い世代にも浸透することを切に願います。まずは出来ることから。能登への支援も、未来に向けた活動も。

